

「雲仙・普賢岳溶岩ドーム崩壊ソフト対策検討委員会（第3回）」

議 事 要 旨

開催日：平成27年9月10日（木）

13：30～15：00

場所：雲仙岳災害記念館 セミナー室

1. これまでの観測結果について

- 本年8月の出水報告において、光波測距データの斜距離の縮小が一時的なものかどうかを確認すること。

2. 崩壊のブロック区分やシナリオ設定について

- ヘリ写真からの地形判読、各種観測による挙動把握、既往検討による推定内部構造を総合し、ブロック区分と同時に予想される崩壊形態も検討する必要がある。
- 航空レーザ計測差分や、衛星SARによる差分干渉解析の活用も検討すること。

3. 崩壊のブロック区分に基づき、観測機器の配置計画を検討について

- 観測機器によって、ケース3か5かという判定まで即時に行うことは困難かもしれない。

4. 観測値の情報伝達方法等について

- 避難猶予時間が最短5分しかない中での情報提供方法を関係市町村において検討すべきである。
- 24時間の観測体制が望ましい。
- 大野木場砂防みらい館を防災拠点として活用することも検討の価値がある。